1 日頃頻繁に警察官に職務質問されて、不快な思いをしていた甲は、警察官のことがすっかり嫌いになって、警察の業務を混乱させてやろうと思った。そこで、X警察署に電話を掛け、電話に対応した警官Aに対して、近日中に管轄内の駅に隣接した大型商業施設に爆弾を仕掛けることを予定しているという虚偽の内容を話したため、X警察署の警官数十名が、通報からのち約1週間にわたって、その駅および大型商業施設周辺の警備にあたることになった。だが、虚偽であるため、まったく無駄な業務を行うことを余儀なくされた。
2 乙は自己が所有する自己名義の土地を2000万円でBに売り渡す旨の売買契約を締結し、Bから代金を全額受け取った。しかし借金の返済に追われた乙は、いまだ当該土地の所有権移転登記が完了していないのを奇貨として、当該土地に抵当権を設定し、C銀行から500万円の融資を受けた。その半年後、これまでの上記事情を知る丙との間で、当該土地を1500万円で丙に売却する旨の契約を締結し、丙に対する所有権移転登記手続きをした。

甲、乙、丙の罪責を論ぜよ。

参考判例
東京高判平21年3月12日
最大判平15年4月23日